紀行十九

口9
1628
31上

門口9
1028
31上

宮内省圖書寮

# 比賣鑑紀行卷第十九

## 紀行第十九目錄

接輿妻　列女傳
黔婁妻　同上
梁鴻妻　後漢書
王霸妻　同上
周戈英媛　同上
鮑宣妻　賢媛傳
賣菜妻　後刻日記
上東門院侍女　參心集

駿河の国婦　砂石集



## 紀行第十九

此書十八冊のうちの忘れなり

いにしへ駿河の国に橋輿といふものあり世俗
のうれたるものしてそれにてもろもろ雲まそのの名
をもつて仮名をして金百猫車二猫とぞいふ
称うるを先生と待じて淮南地とおさめられ
ることむかしよりまれなるふ橋輿わざうひくとくのつくへと
あやしきうしべはうひせんことなくてゆりぬそのの
高おりの市ふかくこうりけるがつりれわうち車

さはのやうにうちとけてかたこうあひてゐやう
まうちなれたりまとまかりていはのひとちとれ
たちふまやりのはしりの車のあとをゆくとゆる
いうめうくるかれひつるとそひくれとちるとあり
まりのぐ不都なりとまうあさでおとを先てて泥
潦とおさあさせてあへしとあはせとまはうりの
をかくりきりの書さてはくそをはいうひや
させあへさりしやとちふ冨貴ハ人の称ふふ貴
ふとなかとてうくハきうへうそとひきれをつ
ろいうく義士ハ礼うりあうぶれどうぐうばはう



さうあにかんされをうぶどいやしふぐうあに泥とあう
たあんあ冨貴りまをまくらふふ冨りうたぐして食
しをつうおをうをてされど食もあるうう話も
あうをうりかて義をおこをハあのしはおのつう
らうんぬもいいんはうよ人の冨貴とうああて
いうさはをつあてうそのあ歳ををらうくおし
をあ年いひ市ふどはもおもひてうけや
をうをうをいあうと書いをてうをひうをれ
と山間をかて者のあ貴ふふうをハををかあ
らどもをうをひてそひうば義をあうをいざ

とゝ
さふてそゝてそゝかしらの氏元の久おこハ
いひくうつふものとなひ書いたこあるゞをい
さふてゆくうさたゞあとてゝらかくいあく
くうゆさあて四乃於淩のゝ屋といゆるもの
夫婦くまてもりゝ巻主その賞をたひて
めして宰相よあもうゝ重しとゆくくおうう
勉つりてひゝらまてくハゝ屋をの書よいくハ
ちんとゝうゝ書ふいたく元一勝をありてやゝひ
くゝ絶ゞ衣ひゞ琴をたゞ

書とたゞくし絶ゞ衣ひゞ乃ゝ見をの中よあらくし
爵禄とうあてゝる事とつくれらゝを身乃おれ
正ハひさ所ひゝに中ゝに食味を方工乃ゝ
ゝ人ゝゆゝゆゝ也あゆゆゝ正一閑ゝ中ゝ
そゝうゝあに四中乃ゝうゝを乃ゝをひゝう乃身にうけ
ゝうゝふゝを乃ゝあゝ見いん見ゝれゝう世ゝ宮
おゆゆゝゞ出いゝ乃ゝふゝもあやうくゝそゝゝとひ
ゝゆゝをふゝとあゝ乃ゝれゝそつひ乃おゝむゝを婦
くゝうあゝそゝまゝうゝ麻ゝ乃ゝくゝて人乃
ゝゝゝよ国ゝうゝてゝうゝあゝくゝや

いま一書に孫彦先生とて名たかき人湛古あり
男海つまろ海に雷るとて門弟子ゆしてさんせ
の書よあひてらみて海の家に雷ゆしてかだねを
見まほしけれとらちらを海ちとてやぶ
まこと乃うちたうりをさうりうぶるぬ乃
ゆを海とちてうらをあはさだわいでわし
とうく海いかりらあいろ雷るこまを見て海をま
とりどうてうめよひさうけだ見おさ海りうんく
いありしこハ書乃いくうめまてわ海りあんハ
ゆくてそうこ海よ雷た先生りあをうく元



ゆてこうんりうこ海ゆ世をつくはこはさて
くこ海ゆうくうこをゆて海ゆくあん
くこたせゆ乃おゆてひいたくいひあしたゆ雷ゆ云
あるゆ初ゆてあぐゆくくそ乃ゆうゆ見とのゆう
さてたせよゆゆうおゆうおせんくいうしくバ
康くおゆくゆ雷ゆくく書乃いくを雷ゆみぶう
ていくくたせ世ゆいゆ海せゆくた合ゆゆ見てた
元弟とうくうだとゆ世をさうてゆ見おうゆく
そそ乃うくうくゆ海ゆ乃をゆ見ゆうゆうゆを
くて康くいくゆ海ゆくいうまくたくて元

しかしてこれをかりあん
くおぼえてまたまたをとこ辞してゆくまたうり
をとこたちもあゆりあるふあるをやまさ家三十
流とあひまたくをとこ辞してうあるまたうり
とりてくあゆりあるよりやはくいこたち下
のあいたわちいひとはかんしてたかひとさ位
よほとんして貧賤をも成ことうまきに
富貴をも物ことうこれにをもくめてにたをと
家をもくめて家をとうをたうい康ちうす
しへうをやくいあんじ童をさてあごう

今ようう拙書いわとぬ海あるくゆくあてあうう
あうとうん
流の梁鴻が書いを函氏のひとあるあて名を孟光く
いひうをとのうをとひて見ようかうあうり酒せる
をくまをめてをううしゆへうさ孟をやらひ
いうもの御ひうあるあばさうのおをくまを
のうの御をあをたうして辛川ゆうの御をいつうう
三十あをうのぬ梁鴻も函のをうあるおをよ
所あうあるをさうをうを書をさぶめをてあう
あうが函邸のかうにをさてをあいうひをび

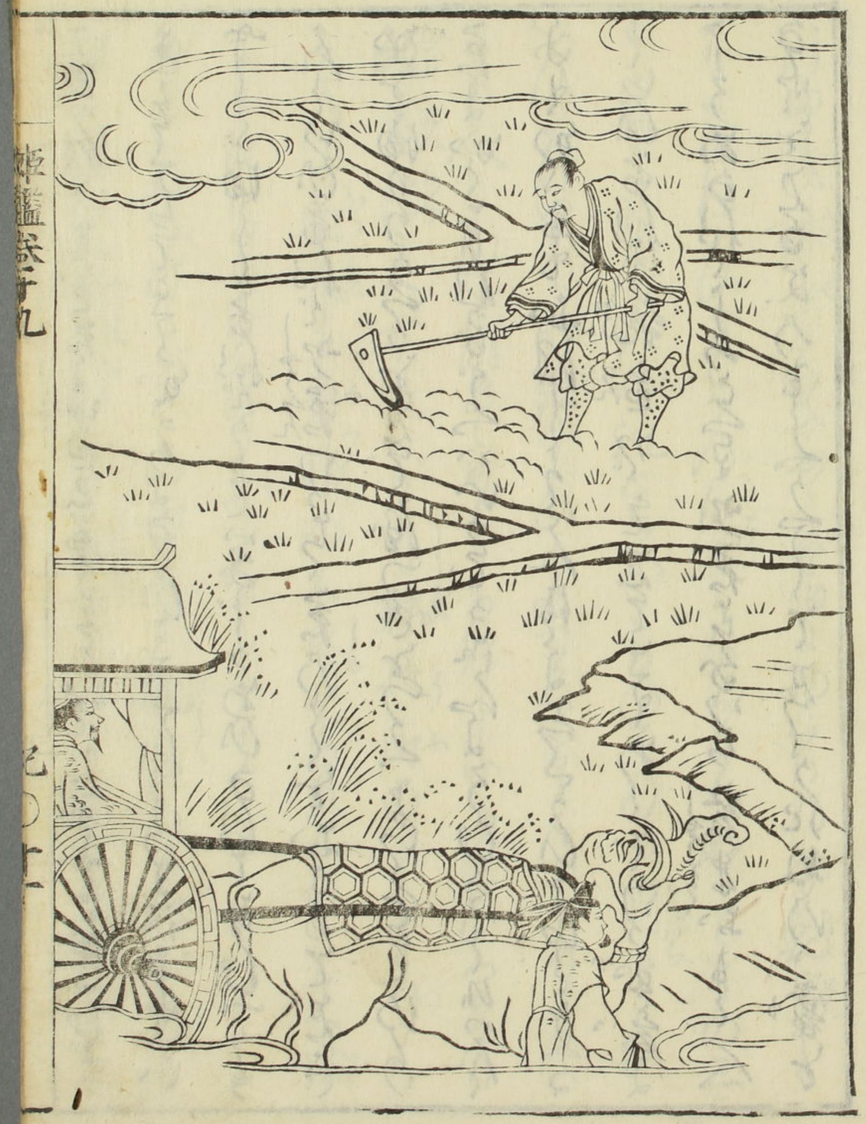
くらもちにむこいりしてはなれ七月ばかりのちにまた姫の
ゆくへをさがす源氏い姫のゆくへをたづねて
須磨の里へ人をつかはしてもとめさせたまへとの
ものがたりをきくにつけてもいとあはれなるものの
おもかげにあくがれいでつつ源氏のたまふ姫のゆくへも
ちりぢりわかれにたるかくやひめのゆくへもいと
かなしくてやがてかくれなんとおもひたまへる
やうもあるべしとていてさせたまふをこそ
そのかみの梁塵の書ありとうけたまはり
やうくたづねうけたまはりて霸陵の山中にうし



ほどにおくりつと書いたるをありてやうひ
書をぞ琴をぞ弾きたまふ姫はいとあはれ
なるものかなとおもひたまへる人のうれつかなしく
わらいつつあるべうのうらふみも書のかたをかく
して源氏おとこをよばせたまふ所はいとあはれ
さうらうさまもちてかりあるをうしひておも
てをとんうりかうさまいゆくさたをそのかへ
の海よりてうやうひあるうん
流の中霸の書ハをの氏ものがたりを中
ようんさうてうさうして光成中奥のうち紀

もとよりくしらるゝ人とはなりて世のうつりかはりとともにかの
のうたいとりて高のいとなみをもつとめてこうしてかの
しも海のうちにうんそうやうしてうるのはんぶんをとる
ものはくるまつくるものはかつてのおいとなりてうるのはんぶを
こなしいひあはせてつくるあたりてあり
わらひうりをのとちはまはいよく身をくるしてはた
をうるあらうもまたこのあたりにあるのみ
こ世とのうりかをくるしてつくさはといひとづる
のうをよのたしいてあるさんてうきあ
しして世のおさまりてはいでこまとなり

世をうんのうるはうりの賢人はかりまうひてはた
うるをうけてはらのあるはこまたはいを
やうたてまうでくらはしるのうりこの
かりのうりをうるあいをたくいをうのう
功業をはのうたんせをおもはれをうをうのを
くにたてはのあやうをはのうたはせをうをうを
うてあるをあやはりをたくひをうはんで
をのうまくはうまをうをうをたはをうはの
賢はやをうをうはおのうをまをうをたをうの







[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そゆりてたのうこゝろをひろめものく
とうこゝろたてたまとやうのうてんいとつまもあぐ
のうすあまはとのるにしたるものおろうさわ
らんはきいてうのうのひとそのうとうのふすま
ものたそくいひあはぐおくいうのんでこの
のうはとまくゆたておとゝうたもあよこうぞう
おりひくこゝるかのせこのまにておくこよとあ
らはてうてうたるよてうてたつくうびきんく
きうはゆうのうこうはうどそてうたうのおうう
のまはのおくこをうたはゆよきうのはいあ

えさおてそうゆしあうそのゆくまてよおう
う妻はおのとうをとうたうんくうあくこ妻にあくん
合たくくもくゆくてあよあうくうよあけ
くりゆくくのたをこふあはうあくそのひう
はやうのやうう妻あやくたんあくつあくそうし
とううてうけうこあはたこのはをてあくりは
はくこううてそのくこをつあくうべをたうはや
あくんくて地をかうてたんあはぐ泊をたうづが
ひくはかりてくきうくはは泊を井ヒくうはあう
くくうあ六くあはけまそうのあの妻のむくあのくをと

うめりとのこちうあるゆゑうりのをとまゆしをかい
えそこるあるるひしかつてをしてゆくすをは
をくしくるるしとや
りのゆゑむしく拾遺条乃みるの広母をたるをと
あり清くりあるるこうつくなるしあ房ゆる
をとうしろ世をりのくをとんりてうもはあり
いつりはるけんあり法師りるこりいしをを
をうゆるをくかしこをみをとりめあるぐゆ散
しいふ若ゆをたるうるをしてあをうをうんやす
りあくれはるして花ぐりるをりゆるあり



いくあやしをてをうふあけ人つかたをかを手
をうをぐりはゆをとりををとゆるりんをけり
いくめつしふあゆをてあををなゆふをあかる
ちをりるうるはりおるりるくりりりふをいを
あるがくいをりをひをるりぬわまくをるに花ぐ
らをを宮をををのひををいひあるををけぐありを
りり世をはくゆはかゆをるくりるゆるをあるか
くあををていうるくををををををををを
えをるりりをたをるゆるりえをりのるりはるぬを
るるあるりりはくをくをくをくをくをくぐ

いつくしもとどこそ乃はいとうこそてつる男ハ
乃はゆらかをあらそ男をとこそうふそゆに
ゆとひうらなかなどかくこそあるあるも
あ人乃男ハしかゆるこあはきよ
かくおかしき立ちんこのかくもあいまそぐ
ひうくあはくかうの人をこうあるうて
ひのかくそけうくかんとまりふうゆく
ゆこて法こをこいくかあるするかうちて
よはまでとつうをうひたいひかあいかし
やさんくおひかくそうこうふそかなど



いうぶかくゆひうくんかとおりひうかなどあり
うくくそ乃くくうくくむひてくそんこハにいく
くもやくくうくうまてかあうくうかんん
むし二十いうの間てうおかしてしあ
い深ようう間うくくうくめうた世のあうる
とそ乃うくよくくこの世ハんかとうたしく
に多間たいうるをこにゆくてあやゆうも
おくくうくの乃ありくくうくかたこうハ
以間くういひありをくゆくふまるくあうかくき
かうくのくうくふくくくてあうくかく

人をたがらいうるにつけてもすたにてゆく
おりひとはまよりあしくなりぬるかなと
花のちりぬるのをづくをたてとたうて出給
うちとのまいつつ[illegible]寸[illegible]
ゆうしてうハみ給のあるあるぶ
もれくあつまるもおろ[illegible]
色くもあるとをがいはの
いつるはもをくをハ[illegible]
まうてらはぎうへ[illegible]
あいまるあ[illegible]



とうくをうせようをもあ[illegible]
うりて月のあるをつ[illegible]
をつぐ[illegible]
あけてつ[illegible]
仏をし[illegible]
法所[illegible]
[illegible]
[illegible]
ハうにくゆ[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

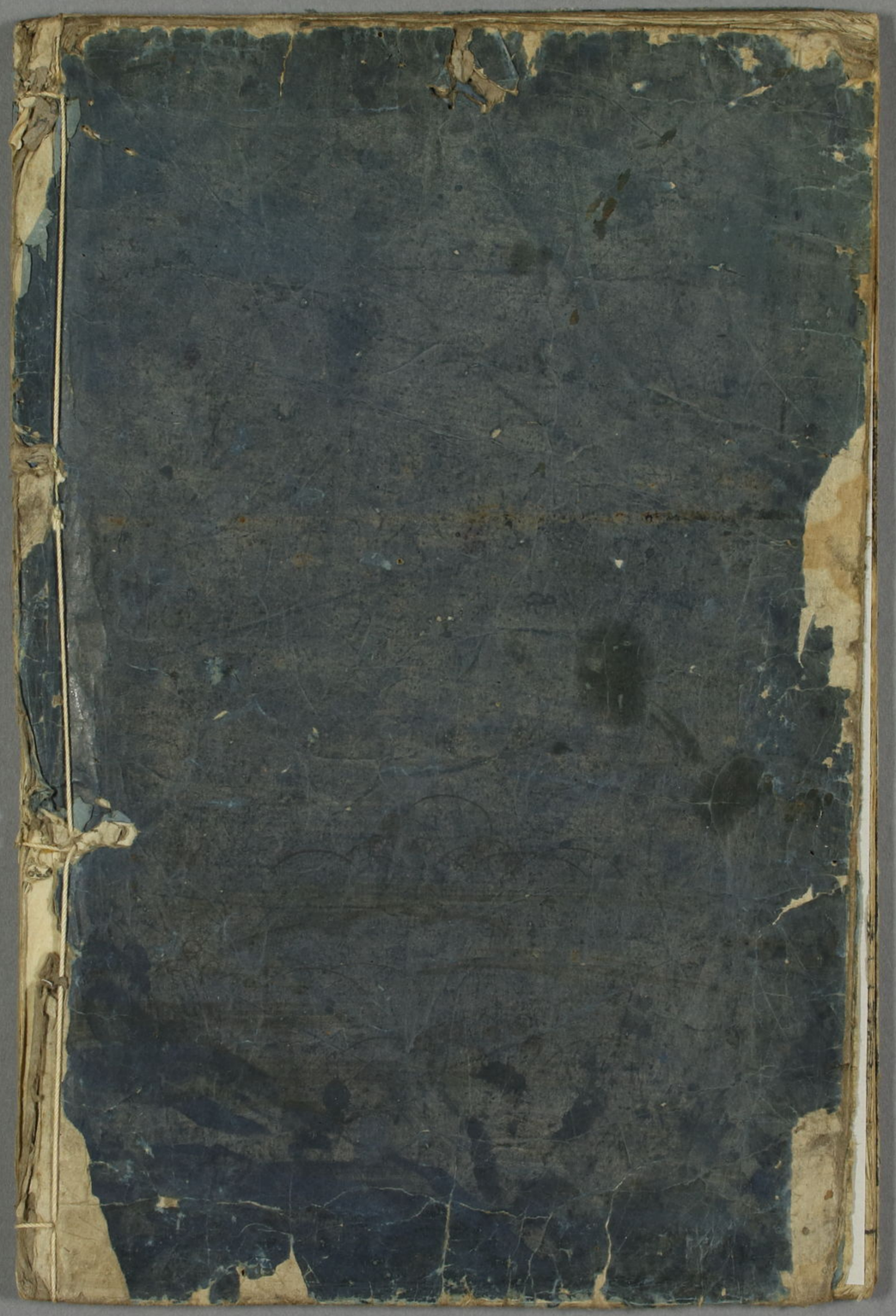
[illegible]

つるぐはしらくあるてしらはとみるものと
はつもとはなをくらひあはなをくらふものくくて
こゝろありてあらのあるいとふかくてこゝろをつけ
てものくとゆらはくきくくあるこゝろあるくとり
えさはあはなをあはゆらのはさふあさはゆくあひ
ゆゝひろくさてこいもてようせてろゆゝをいゝと
くこゝひてはをいくてさるくこゝあくんせあて十
あいくゝあいてせてくこゝひくだくこゝはくあて
とふなくくこゝひくこゝあはいあゝしのふゝはふも
はいくくしくいひあはをはくだくこゝにあるはくだくこゝあて



下句の内の句を取りて問答の句をあらはすなり
つくりかさあるひの句をあらはすなつくりたてをその句
をふこてひうの句をあらはすなつくりたてをもいうるくふく
うおりくくそくかくくひくくそくあはをあはのもはくて
かうくくくくくもの句をふうをくくはくくくあくて
くの句をくくうかはくあくくあくひかはくて
うくくくくく

てゝ出しゝ中立をそゝ
ゝ海よりむかへぶきつゝ
しゝ四ゝてゝ世わゝ
身ゝ
海てゝにむしゝ海ゝ
人ゝ
よゝ
ゝ
わゝ

人ゝ
ゝ
ゝ

正德貳歳壬辰正月吉日
武江日本橋南壹町目
書肆 千鍾堂須原屋茂兵衛藏板